S I A S R (Saitama Infectious Agents Surveillance Report)

H25年4月10日

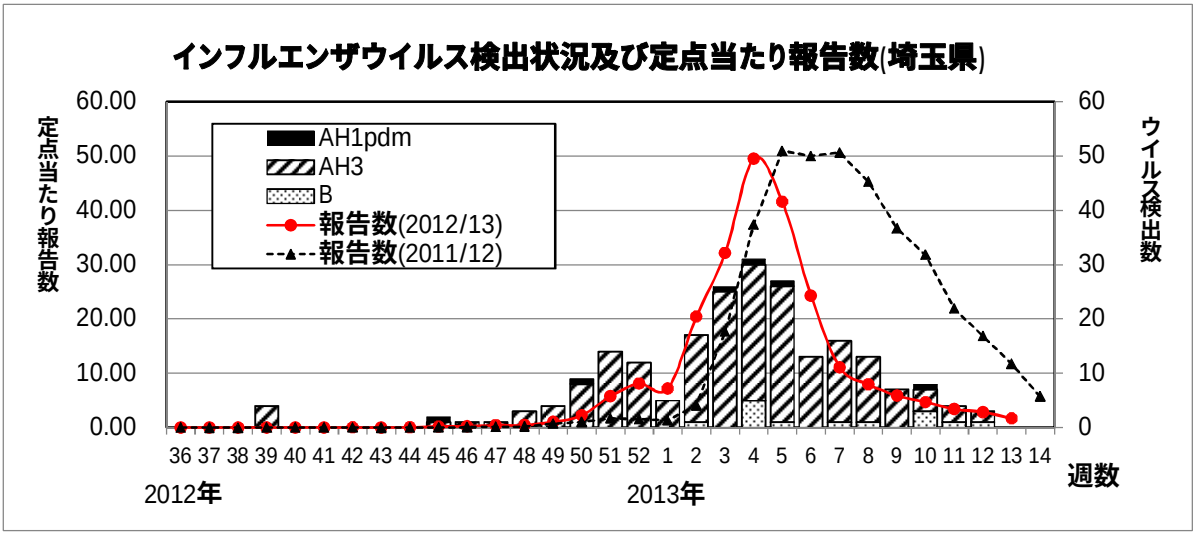
今冬のインフルエンザ

(1) 定点当たり報告患者数の推移

今シーズンのインフルエンザは、2013 年に入ってから本格的な流行を迎えました。定点当たり報告患者数は第 2 週から急上昇し、第 4 週に 49.37 に達してピークとなりました（下図参照）。第 5 週以降は報告数が急速に減少し、第 13 週には 1.71 となり、今シーズンの流行は終息に向かいつつある状況です。

(2) ウイルス検出状況

2012 年第 36 週から 2013 年第 13 週までに、埼玉県衛生研究所及びさいたま市健康科学研究センターで検出されたウイルスは、（H1N1）2009 ウイルス(AH1pdm)が 6 件、A 香港(AH3)型が 200 件、B 型が 14 件です。今シーズンの流行の主体は AH3 であり（下図）、全国的にも検出ウイルスの大多数を占めています。B 型は 2013 年に入ってから散発的に検出されています。AH1pdm は散発的な検出ながら昨シーズンより若干検出数が増えています。



(3) 抗インフルエンザ薬耐性ウイルスについて

国立感染症研究所において、2013 年 3 月中旬までの全国の分離ウイルスのうち、AH1pdm の 44 株、AH3 の 133 株、及び B 型の 58 株について、抗インフルエンザ薬（オセルタミビル、ペラミビル、ザナミビル、及びラニナミビル）に対する耐性の有無を調べたところ、AH1pdm の 2 株にオセルタミビル及びペラミビルに耐性を示すウイルスが検出されました。これら 2 株はザナミビル及びラニナミビルに対する耐性は認められず、また地域への感染の拡がりも確認されていません。

（http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#taiseikabu）

病原体定点の先生方には、引き続き検体採取の御協力をよろしくお願いいたします。

インフルエンザに関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症疫学センターのホームページ（http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html）でご覧になれます。